

# あらた同窓會

平成26年 秋季号

平成26年11月23日発行

鹿児島大学農学部  
あらた同窓会  
学生会員向け会報

電話 099-285-8537



# 目次

鹿児島大学農学部の強みを知り、学びを進めよう	富永 茂人	2
Life is a series of making choices. ～20年間右往左往した私の場合～	坂尾こず枝	3
先人が後輩に遺してくれた防災の話	田中 慶秀	4
農学部と水産学部が連携した「国際食料資源学特別コース」の紹介	遠城 道雄	5

## ビバ・キャンパスライフ

### 生物生産学科

#### 作物生産学講座

「国際協力をやってみて感じたこと」	熱帯作物学研究室	学部3年	野間口 智	6
-------------------	----------	------	-------	---

#### 園芸生産学講座

「これまでとこれから」	果樹園芸学研究室	学部4年	山添 俊明	6
-------------	----------	------	-------	---

#### 病害虫制御学講座

「鹿児島での“やどかり生活”」	植物病理学研究室	修士1年	岩永 大貴	7
-----------------	----------	------	-------	---

#### 家畜生産学講座

「大学生活」	家畜管理学研究室	学部4年	結城 学	7
--------	----------	------	------	---

#### 農業経営経済学講座

「卒業論文を通して学んだこと」	農業市場学研究室	学部4年	濱崎 泰輔	8
-----------------	----------	------	-------	---

### 生物資源化学科

#### 生命機能化学講座

「キャンパスライフ」	生分子機能学研究室	学部4年	川畑 敏郎	8
------------	-----------	------	-------	---

#### 食品機能化学講座

「ビバキャンパスライフ」	栄養生化学・飼料化学研究室	学部4年	島元 紗希	9
--------------	---------------	------	-------	---

#### 食糧生産化学講座

「大学生活を振り返って」	植物栄養・肥料学研究室	学部4年	鷺見 寛一	9
--------------	-------------	------	-------	---

#### 焼酎学講座

「大学生活を振り返って」	焼酎製造学研究室	学部4年	島田麻里奈	10
--------------	----------	------	-------	----

### 生物環境学科

#### 森林管理学講座

「大学生活を振り返って」	砂防森林水文学研究室	学部4年	松本 祐樹	10
--------------	------------	------	-------	----

#### 環境システム学講座

「アルバイト経験を通して」	農業環境システム学研究室	学部4年	満尾 和博	11
---------------	--------------	------	-------	----

#### 生産環境工学講座

「反省と後悔」	利水工学研究室	学部4年	山口 葵	11
---------	---------	------	------	----

### 獣医学科

#### 基礎獣医学講座

「大学生活を振り返って」	行動生理・生態学講座	学部6年	大島 亮子	12
--------------	------------	------	-------	----

#### 病態予防獣医学講座

「六年間を振り返って」	動物微生物学研究室	学部6年	中川 美穂	12
-------------	-----------	------	-------	----

#### 臨床獣医学講座

「大学生活を振り返って」	伴侶動物内科学分野	学部6年	久保翔太郎	13
--------------	-----------	------	-------	----

教育実習奮闘記	13
---------	----

インターンシップ体験記	14
-------------	----

介護体験記	16
-------	----

留学報告	17
------	----

編集後記	18
------	----

## 鹿児島大学農学部**の強みを知り、学びを進めよう**



富永 茂人（農学部長）

私が昭和58年4月に母校鹿児島大学農学部園芸学科に赴任してから32年近くが経過しました。この間、農学部の学生気質や教育・研究は大きく様変わりしたように感じています。最近の新入生の様子は32年前の新入生とは大きく異なっています。航空機を中心とした交通手段やITなどの通信技術のめざましい発展によるグローバル化など学生を取り巻く環境も大きく変化したので、学生の行動や思考が同じであることはあり得ません。また、分析機器やデータ解析機器など教育・研究ツールの発展・普及により、研究内容や教育内容のレベルもアップしています。それでは、大学の農学部で学ぶ教育・研究の本質まで変化したのでしょうか？農学部で学ぶ教育・研究は生きた農林畜産物を対象としており、それらの生産技術、生産環境や国土の維持・保全、第一次生産物の保蔵や加工・利用・流通などを目的としています。

現在、鹿児島大学農学部では、農林業、食品産業等、食住農関連分野の技術者、地域指導者等を養成するために、・・・温帯から亜熱帯へ数百 km に及ぶ多様な自然環境を背景に、フィールドでの教育を重視し、豊かな人間性、現場での実践力、優れた応用力、広い視野と国際性の涵養を教育理念としています。そういう意味では、鹿児島大学農学部の前身である鹿児島高等農林学校の創立目的と大きくは変わっていないと思われます。

平成25年度に、鹿児島大学が掲げた「ミッションの再定義(農学系)」でも、「アジア・南太平洋の諸地域に開かれた豊かな自然環境を生かし、「学生海外研修支援事業等により農林水産業、食品産業等の専門的知識・技術を修得し、豊かな世界観と倫理観を備え、グローバル化社会に貢献できる人材を育成する。加えて、修士課程ではグローバル人材や高度職業人材育成の役割を果たす」、「附属施設の共同利用拠点化等による国内外での現場実習教育による実践的フィールド対応能力を涵養する教育を展開し、農畜水産物の安全安定供給や利用加工、特殊土壌及び災害からの国土保全などの地域課題、及び地球的課題である温暖化等に関する研究の実績を生かし、さらに幅広い農学系分野を持つ強みを生かし、分野横断的にかつ国際的に通用する高いレベルの研究を推進する」、「国や南九州の地方公共団体及び関連産業界に高度な技術と情報を提供することで産学官連携の核となり、鹿児島大学焼酎学シンポジウム等の地域や市民向け公開講座やシンポジウムの実績を生かし、知の拠点として地域社会に貢献する」、「履修証明課程'高度林業技術者養成プログラム'、'焼酎マイスター養成コース'等の実績を生かし、社会人の学び直しの機会を更に充実する」などが強みや特色、社会的役割であるとされています。

以上のような鹿児島大学農学部の強みや特色、社会的役割を知り、恵まれた自然環境や教育環境を生かすべく、主体的に講義や実習・研修に参加し、学びを進めることによって、能動的な学生生活を送ることを期待しています。

## 平成26年度学生向け講演 (要旨)



## Life is a series of making choices. ～20年間右往左往した私の場合～

坂尾 こそ枝 農学部助教

(平成21年鹿大大学院連合農学研究科修了)

“人生は選択の連続である”その言葉のとおり、私たちは、常に選択を繰り返しながら人生を紡いでいます。その「選択」はさまざまで、それこそ人生の行く末を左右するような選択から、朝ごはんに何を食べるか、というような些細な選択まで、それは多岐にわたり多様に変化を繰り返しています。今の日常生活は自分の行った選択の集積であり、私たちの履歴書からは、単なる学業や職業の経歴だけではなく、過去から現在に至るまでに自身が行ってきた比較的大きな選択と決断を垣間見ることが出来ます。その履歴書を紐解きますと、私の場合、平成5年に中学を卒業し平成25年に鹿児島大学に就任するまで、実に20年もの時間を費やして右往左往していたことが分かります。そしてその背景には、高校浪人、大学の中途退学、文学部から工学部さらには農学部へへの転部、日本から海外への飛び立ちと、多種多様にわたり選択を繰り返してきた日々が存在しています。

そのような私の右往左往した20年間の幕開けは、高校受験失敗と言う、少し苦い経験と共に訪れました。第一志望の高校を落ちた私は、そのまま第二志望の高校に進学するか、高校浪人をするかの人生の岐路に立ちました。15歳の私には人生初とも言える大きな選択を迫られた訳ですが“自分の納得できる人生を送りなさい”と言う両親の言葉に後押しされ、当時は非常に稀であった高校浪人の道を選びました。その後、無事に高校に入学・卒業した私は、能力を生かした文学の道に進むも、中学生時代から憧れていた生化学の世界への思いが断ち切れず退学を決意、再度大学を受験しなおし工学部へと進みました。しかし、そこでも中学時代の夢を満たせるほど十分な技術を学ぶことが出来ず、博士後期課程の進学時に、鹿児島大学の連合農学研究科の受験を決断、そこで技術と博士号を取得したのち、海外に飛び立つ道を選びました。そして、20年越しのアプローチの末、中学生時代に夢に抱いた場所に到達することが出来たのでした。振り返ると、この20年間、確証のない夢の実現へのモチベーションを支え、一見厳しい道を選択し続けることが出来た根底には常に両親がくれた“納得のいく人生を送る”という言葉と思いがありました。

さまざまな選択を繰り返すうちに、知りえたことも多くあります。①世間には様々な意見を持つ人がいるということ ②失敗や嫌な出来事は、実はマイナスポイントではなく、寧ろ貴重な体験ができる絶好のチャンスであること ③自分の可能性に自ら制限をかけないこと ④助言を求めること、またその助言を吟味した上でそれに左右されないようにすること ④自分の選択には自覚と責任そして覚悟を持つこと、などです。何よりも“人との縁を大切にし、全てのことに感謝する気持ちを持つこと”は、20年かけてようやく実感を持てるようになった貴重な学びです。さらに、人生における選択に「失敗」と言うものは存在しないことにも気付かされました。

人生には常に大なり小なりの選択が付き物で、その選択が今後の人生にマッチするか否かは、すぐに分かるものとは限りません。学生の皆さんは、これから先、さらに多くの人生の岐路に立ち選択を迫られることがあるでしょう。しかし、どのような選択も自分が真摯に受け止め決断したものであるなら失敗することはありません。ですから時には大胆に、時には慎重に、そして常に“自分の納得のいく人生”のための選択を行って下さい。最後にアメリカで生活していたときに心に残った言葉を未来の皆さんへ贈ります。

Your life is a result of the choices you make. If you don't like your life, it's time to start making better choices. -Unknown

## 平成26年9月22日に開催された学生向け講演会

演者の田中慶秀氏は昭和39年に鹿児島大学農学部農芸化学科を卒業され、神戸市役所に36年間勤務、その間に鍼灸の夜学に通い、鍼灸師の免許を取得し、退職後は鍼灸ボランティア活動をおこなわれる。今回、演者は鹿児島大学で開催された「日本自然災害学会」に参加され、この機に学生向けに講演したいとの申し出があり、農学部と本会で講演会を共催しました。本稿は講話の概要です。

### 演題・先人が後輩に遺してくれた防災の話

演者・田中慶秀

江戸時代中期に幕令によって薩摩藩が施工した宝暦治水事業は、工事中に80余名の藩士が自害・病死し、工事完了後に薩摩藩総指揮の家老平田靱負も自害するという事件であった。徳川家重は薩摩藩主島津重年にお手伝普請という形で川普請工事を命じたが、これは、幕府の指揮監督の下、薩摩藩に資金調達、人足、資材の手配などすべてを負担させるものであった。この幕令に「一戦交えるべき」との藩の強硬論者たちに対して家老平田靱負は「彼の地の人々も日本人、災害で苦慮している……」と強硬論者を説得し、薩摩藩は請書を幕府に提出した。そして、工事に従事した藩士は総勢947名、工期は1年3カ月に及び、薩摩藩は貴重な多くの人材と莫大な資金を失い、莫大な負債を背負ったのである。この宝暦治水事業における薩摩の家老以下藩士たちの行動こそが正に今日のボランティア活動の元祖であると演者は評していた。

演者は、今回の東北大震災に当たって「鍼灸ボランティア」を組織して、宮城県、福島県、岩手県へ赴き、3名のメンバーで被災者に対応し、そこで得られた色々な情報と減災に関する知識を披露された。

今回の地震の震源地は6か所に及び、その震度はマグニチュード9.0であった。そして、マグニチュード6以上で何かに捕まらないと立ってられないほどの振動が1分以上続く連続型の地震であった。以前に津波を経験した人々は、大津波の襲来を予感して、早めに避難して助かったが、忘れ物を取りに帰宅した人たちのなかには逃げ遅れて命を落とした方が多く、普段の避難準備の重要性を強く訴えていた。

避難できた人々の中で被災経験者の多くは、非常用のリュックに普段から飲物、インスタント食品を3日分、携帯電話、ラジオ、薬類、セーター、靴下、下着、ライター、etc. 携行しており、普段の備えの有用性を強調していた。

そして、避難所の管理では、最初にみんなで一緒に「決まり事」を作り上げ、協力が重要であると指摘し、震災への対応は自主、共助及び公助が一体化して初めて効果が挙げられると説いていた。

被災地における聞き取りは多方面に及び、上記以外にも色々な事例が紹介された。

(文責：農学部あらた同窓会 林 満)



平成27年度スタート！

## 農学部と水産学部が連携した「国際食料資源学特別コース」の紹介



遠城 道雄 農学部教授  
(昭和59年農学研究科修了)

鹿児島大学では平成27年度から農学部と水産学部の共同で「国際食料資源学特別コース」という、新コースを設置することになりました。このコースは、東南アジア、アフリカ、南太平洋などの地域を対象として、農産品や水産物などの食料資源の持続的生産とその合理的利用に関して総合的に学び、国際的な食料問題に取り組む人材を養成することを目的としています。農学部12名、水産学部10名、1学年定員22名のコースで、2年次までは、両学部の学生はほぼ同じ授業を受講します。3年次は、各学部の学科に分かれて、指導教員を選び、卒業プロジェクトを行います。このプロジェクトとは、短期留学による海外農水産業の調査研究や国際機関での実務研修などを行うものです。また、本コースの英語による必修授業は14科目以上になる予定です。農水連携という試みは、他大学には見られない、新しいもので、農・水産学部生が一緒に学ぶことで、総合的・複眼的な視野から食料問題を広く学ぶことができます。

近年、巷には「グローバル化」という言葉があふれています。これを一言で説明することは難しいと思いますが、私たちの周りを見る限り、海外とのつながりを全く無視して生活することはできないということは、大学生であれば、誰もが納得できるでしょう。例えば食料に関しても、日本の食料自給率は39%（カロリーベース）しかなく、我々の日々の食べ物の61%は海外から輸入されていることとなります。また、国内民間企業も社内公用語を英語にするところが現れて、マスコミを賑わせています。大学でも、卒業まですべての授業を英語で行う学部、学科を設置するところが出てきました。これからは、国も企業も大学も学生も良かれ悪しかれ、「グローバル」という大きな波の中でもまれていかざるを得ないでしょう。そのような世界において、本コースで学んだ学生が、広く国内外で活躍できるような教育・研究を提供します。

こんな人に来て欲しい！

世界の食糧危機を救いたい！

グローバルなフードビジネスで活躍したい！

高外の学生と共に学びたい！

世界の食料問題に興味があるので、英語を勉強して、世界に出たい！

簡単な水産も、理系も文系も全部学びたい！

グローバルなキャンパスで幅広く学びたい！

国際協力活動に参加したい！

国際機関でインターシップを経験したい！

国際食料資源学特別コース入試の概要

学部	学科・コース	入学定員	募集人数				
			前期日程	後期日程	AO入試	推薦	推薦/出願
農学部	生物生産学科	26	19	5		10	若干人
	生物資源化学科	50	49	6		若干人	
	生物環境学科	61	49	6		若干人	
	計	137	117	17		19	
水産学部	水産学特別コース	22	12	10			若干人
	水産学特別コース						
	水産学特別コース						
	計	130	110	20	5	5	

国際食料資源学特別コースの案内（抜粋）

## ビバ・キャンパスライフ

### 生物生産学科

#### 作物生産学講座

##### 「国際協力をやってみて感じたこと」



熱帯作物学研究室  
学部3年 野間口 智

こんにちは！熱帯作物学研究室の野間口です！  
私が大学生活大きな気づきだと思えることは、何も無い手のひらを開いて、何も無いことがわかったことです。

子供たちのためになにかしたい、笑顔のために何かしたい。入学早々参加した中国の砂漠緑化研修、翌年のミャンマー国際協力視察研修でそう願ったのを覚えています。

しかし、砂漠を緑にしようとか、飢えてる子供にお米をつくってあげたいとか、そういったことは今の自分には論外でした。自分の研究室を持つまで頑張ってもできるかどうか、そういうレベルなのだということが学年が進むにつれ知りました。けんきゅうしゃってという白い服のおおきなものに、強いビンタで吹き飛ばされてまっしろになった気分でした。

そんな時、国際協力サークルに誘われました。そのサークルを作った先輩は言いました。

「子供も大人も、笑顔にしたい」

もうちょっと、夢見てみようかな。

サークルの活動は具体的に、ミャンマー連邦シャン州の村、金銭的に学校に通えない子供達のために、母親へかご編み講習を受けてもらう活動を進めていました。講師の委託や現地との連絡、共同出荷の提案を進めるなかで、何かしてあげたい、という思いが強くなりました。

ここでまた問題発生。私がミャンマーを大好きな理由、日本が忘れかけている「家族・地域のあたたかさ」。これをいわゆる発展がこわしてしまうんじゃないか。それに、売れるかもわからないかご編みの講習を開いて、意味があるのかという不安がよぎりました。

ここでプロジェクトをやめていたら、今の自分はないと思います。自分たちで企画したことを準備・連絡から渡航まですべてやりきったことは自信にも経験にもなりました。なにより、村の人を勇気づけることならできると気づき、逆に村の人のやる気と変化に勇気づけられるプロジェクトにできました。

なんにもないけど、できることはあること。そして、生活が変わる側、つまり村の人たちが自分たちで良くしていこうと納得するまで提案し、同じ目線で話し合うことを学びました。

#### 園芸生産学講座

##### 「これまでとこれから」



果樹園芸学研究室  
学部4年 山添 俊明

私の大学生としての時間は、早いもので残り半年となりました。県外出身の私は、何もかもが新たなスタートとなり、最初は戸惑いの日々だった事を覚えています。しかし、様々な出会いがあったことにより、今の自分があると考えています。私は高校生のころ、地球温暖化の進行と共に注目度が高まっていた熱帯果樹に興味がありました。その際、熱帯果樹の研究も行っている果樹園芸学研究室の存在を知り、鹿児島大学に進学し、この研究室に入りたいと考えていました。こう思うようになったのも周囲の助言という出会いからでした。その後、無事に進学し実際に研究室に所属してからは、まずは先輩方の研究の補助から始まりました。この研究室は多人数での調査作業等が多く、先輩方のお手伝いをしている時の私は、来年の自分の卒業論文の際に上手く調査や作業が出来るのか不安に思うことがありました。そんな事を思いながらも月日は経ち、自身の卒業論文のテーマはタンカンという亜熱帯性カンキツを用いることに決まりました。内容としては、屋久島や奄美大島などの離島にも果実を採取に行き、その後品質調査を行うもので、自分一人だけではどうにもできないテーマでもありました。しかし、先輩方をはじめとする研究室のメンバーの支えにより、ここまでは順調に進めることができ、大変感謝しています。また、課外活動でもさまざまな出会いがありました。

以前働いていた飲食店でのアルバイトにおいては、ただ働くということではなく、誰かのために頑張るということを学びました。どんなに困難な課題であっても、仲間と共に助け合いながら努力してきた思い出があります。この四年間では様々な人と出会い、たくさんの経験を得ることが出来ました。中には迷惑をかけてしまい反省することもあります。私は、この出会いに感謝し一生の宝とするとともに、様々な面で恩返しをしていきたいです。

## 病虫害制御学講座

### 「鹿児島での"やどかり生活"」



植物病理学研究室  
修士1年 岩永 大貴

鹿児島に来て早いもので4年が経ちました。生まれてから長崎の田舎で育ってきた自分にとって、初めての鹿児島の街はとても都会に思えたものでした。生来人見知りの自分は、見知らぬ土地で如何にして生活していこうか、こんな都会で灰にまみれながら暮らしていくのかと、不安であったことをよく覚えています。

僕が農学部に行きたいと思ったのは、小学生の時から「蘭」に興味を持っていたからです。蘭というのは不思議な草で花が咲くまで長いもので20年、しかも1年の内の10か月は緑色の葉だけという何の面白味もない草であるにも関わらず、なぜか多くの人を引き付ける魅力があります。僕自身、この趣味を持たなければもうちょっと若者らしい生活を送っていたかもしれませんが、しょうがないものと今はあきらめています。

鹿児島に来るときに300鉢の蘭を処分し選抜品を30鉢持ってきました。栽培技術には絶対の自信を持っていましたが、鹿児島のアパート生活では自然育ちの蘭は上手く育たず、さらに数を減らし10鉢になりました。

そんな頃、植物病理学研究室への配属が決まり、岩井、中村両先生とお話しをしていると、「実験室の一室の人工照明下で植物の栽培をしているからその隅っこに置いてみたらどうだ」との有難いお話をいただき、蘭たちの"やどかり生活"が始まったのです。

この部屋の環境が最高で、1年1芽の出芽が上手くいくと1年2芽のスピードで成長しています。変な話

ですが植物病理学研究室に配属されて本当に良かったと思っています。

最近、先生からは「あの草大きくなっているの?」、研究室のメンバーからは「邪魔、早く売って!」といわれる日々ですが、もうしばらくの間は"やどかり生活"をさせて頂きたいと思っています。

## 家畜生産学講座

### 「大学生活」



家畜管理学的研究室  
学部4年 結城 学

この原稿を考えているときに思ったのは、大学生活の9割がすでに終わっているということでした。これまでの大学生活を振り返ってみると、サークルにバイト、研究室での生活、友達と遊んだことなどいろいろなことがありましたが、もっと遊んでおけばよかったかなとよく思います。

3年の前期までは、サークルとバイト漬けの生活でした。サークルは軽音楽サークルに所属し、ドラムを叩いていました。幸運なことにもものすごくうまい先輩を持ったため、刺激・魅了され自分で言うのもあれですが、入部当初より断然うまくなりました。バイトではコンビニと居酒屋を経験し、接客の難しさを感じました。また居酒屋ではそれまで自分本位だった性格を改めさせられた貴重な経験になりました。どれもこれも自分のことをあたたかくも厳しく指導してくださった人生の先輩方のおかげだと思っています。

3年生からは研究室に配属され、それまでの自由な時間が大幅に削られました。特に年末からは先輩から係りを引き継ぎ、卒論にも取り掛かり始めたので研究室主体の生活になりました。飼育当番などの作業に実験や卒論作成と、想像以上に忙しく逃避したい衝動に駆られることもありましたが、研究室の方々に支えられなんとかがんばれました。また得るものもたくさんありました。その内の一つが、これはぶっちゃけ話なんですけど、自分は小さい頃から動物が好きで特に犬が大好きでした。こういう理由で今に至るため、家畜の勉強をして家畜に触れる中で、もちろん動物たちはかわいいのですが、やっぱり自分は犬が大好きなんだな

## (8) あらた同窓会学生向け会報

と再認識できました。就活でも最初は畜産関係に進もうかと考えましたが、途中から犬関係の職につこうと決心しました。

もう二度とやってくるのではないであろう残りの大学生活を大事にして、自分の決めた道を歩いていこうと思います。ご拝読ありがとうございました。

### 農業経営経済学講座

#### 「卒業論文を通して学んだこと」



農業市場学研究室  
学部4年 濱崎 泰輔

卒業論文を書いていく中で自分が学んだのは「少しずつでもいいから行動してみる」の大切さでした。卒業論文のテーマは新規就農についてで、最初は「どのようにして就農に関する情報を入手したか」を調べようと思っていました。しかし、県庁での事前調査を行って初めて自分の考えが浅いことに気づきました。当初は現地で就農を予定している人にインタビューを行えばいいやと考えていましたが、そんなに簡単なものではないということを思い知りました。

見事に玉砕して、何を調査すればいいかが分かりませんでした。色々別のアプローチを考えても、「そんな内容で卒業論文として成り立つのか」というようにに内心諦めかけていて行動に移すことができない状態でした。理屈では「何でもいからとにかく行動しろ」とか「皆頑張っているんだから甘えるな」と分かっただけはいても、途方に暮れて頭に入ってきませんでした。ゼミの日でも後ろめたくて欠席したりしてしまいました。

しかし、周りの人に勇気づけられ、教授から助言を頂いて、「少しずつなら頑張れるかも」という風が変わっていきました。特に教授には色々迷惑をかけてしまったのに親切に指導してくださって、本当に心に沁みました。感謝してもしきれません。今振り返ると、調査前の段階で結論の部分まで考えすぎていたのが行動できなくなった原因だったと思います。予定通りにいかないかもしれないけど、途中で目標が変わるかもしれないけど、それでも少しずつ行動に移していくことが大事だと思いました。今この文集を書いている段

階ではまだ卒業論文は未完成ですが、きっと良い論文になると信じて調査を進めていきたいと思います。

### 生物資源化学科

### 生命機能化学講座

#### 「キャンパスライフ」



生分子機能学研究室  
学部4年 川畑 敏郎

卒業まで残りあと半年。思えば本当に早く、有意義な大学生活を送ることができた。

まだ高校生だった自分が生物資源化学科を選んだ理由は、単に今まで自分が触れてこなかった分野を学ぶのが面白そうだったからで、入学してからは、糖、タンパク質など有機化合物の工業や医学への利用、微生物を利用する食品加工といった、農芸化学という分野が対象にしているフィールドの幅広さを知り、学問の奥深さを肌で感じている。

身近な日常生活にも多くの学びがあった。実家を離れて姉と暮らすことになってからは、家事をこなすことの大変さを学び、自分のだらしなさを自覚した。また、ひと頑張りした後のビールの美味しさ、いろんな種類の美味しい料理を食べた時の満足感を覚えた。食事どきに繰り出す大学周辺で、お気に入りの料理屋を探すのが密かな楽しみだった。

学生時代から社会勉強を積んでおきたいという気持ちがあったため、アルバイトにも時間を注いだ。入学よりも早くから始めていたホテルの宴会サービスのアルバイトでは、テーブルマナーの知識を学んだり、イベントでのピンスポットといった裏方の仕事をしたり、幅広い経験を積むことができた。塾講師のアルバイトでは、人に物事をわかりやすく伝えることの難しさを学んだ。頑張る生徒の姿に刺激を受けることで、今まで続けることができたのだと思う。

学科での思い出を振り返ると、2,3,4年の夏に男子メンバーで行ったキャンプが思い浮かぶ。事情があっても参加したくてもできない人が毎年いたのは残念だったが、海へ山へ、雨が降ってもなお自然を満喫して、夜までバーベキューの火を囲んで騒ぐのは最高だった。

他にも阿蘇の黒川温泉、島根の出雲大社への旅行など、多くの思い出を共有できた。

残り少ない学生生活だが、怠け者の自分が就職活動を経て、卒業まで残すところ卒業論文というところまで来ることができたのは、家族をはじめ、理解のある学科の仲間や研究室の先生、先輩といった周りの人の支えがあったからこそだと思う。感謝の気持ちを忘れずに、あと半年、研究に遊びに打ち込みたいと思う。

## 食品機能化学講座

### 「ビバキャンパスライフ」



栄養生化学・飼料化学研究室  
学部4年 島元 紗希

鹿児島大学に入学して3年半、振り返るととてもあっという間でした。入学当初は、鹿児島という慣れない土地で、特に桜島の灰が嫌でしかたなく毎日実家に帰りたと思っていました。しかし、いつの間にか灰にも慣れ、サークルやアルバイト、研究室でたくさんの人と出会うことができ、毎日楽しく過ごすことができました。

3年後期で配属された研究室では、大塚彰先生と井尻大地先生のご指導のもと、のびのびと過ごさせていただいております。とても居心地の良い研究室で、地元を離れて暮らす私にとっては、先生方はお父さんとお兄ちゃんのような存在です。

研究室では、お互いに助け合い、刺激し合いながら自分の研究に取り組んでいます。この環境の中で、私は自分の成長を日々感じています。ミートジャッジング大会への参加や天然記念物のインギー鶏の見学など、この研究室に入らなければできなかった貴重な経験をたくさんさせていただいています。また、研究室以外でも、研究室の仲間と過ごす時間が増え、数えきれないほどの思い出ができ、さらに絆が深まりました。この研究室に巡り会えて本当に良かったと心から思います。

最後に、大学生活を有意義に過ごせたのも多くの人達の支えがあったからこそ！感謝の気持ちでいっぱいです。残り半年の大学生活も、勉強、遊び、悔いのないように過ごしていきたいと思っています。

## 食糧生産化学講座

### 「大学生生活を振り返って」



植物栄養・肥料学研究室  
学部4年 鷲見 寛一

私の大学生生活は様々なことに恵まれていました。

一番恵まれていたのは友人です。特にこの4年間では同じ学科の友人たちと過ごす時間が多かったように思います。学科の友人たちとは一緒に授業を受けたり、実験をしたりしてわからないところがあれば助けてもらいました。学校以外でもフットサルやテニス、釣りなど学校が終わった後に遊んだり、キャンプや旅行に行ったりして楽しい時間を共有することができました。コースに分かれてからは農場での実習がありました。きついこともありましたが私が今まで経験したことがなかったためか、みんなでやる農作業が楽しいと感じました。また、指宿での実習ではおいしいフルーツを食べたりトランプをして遊んだり実習以外でもみんなと楽しく過ごすことができました。研究室に配属されてからは卒論に取り組み始めました。私の卒論では栽培を行っていたため人手のいる作業がありました。そのようなときに研究室のメンバーに手伝ってもらい助けてもらいました。

また、私が楽しい大学生活を過ごすことができたのは両親のおかげでもあると思っています。私が大学へ行くことで負担は増えるはずなのに両親は進学をすすめてくれました。また一人暮らしをしている人が大勢いるなかで、私は家に帰るとご飯があり、光熱費などあまり気にしない生活を過ごしてきました。私は大学生活を過ごす環境においても恵まれていたと思います。

私は卒業しても大学生活を共にした友人を大切にしていきたいと思っています。また、両親には少しずつですが親孝行をしていきたいと思っています。最後になりますが私の大学生活を支えてくれた友人たち、先輩、両親、先生方には感謝しています。ありがとうございました。



焼 耐 学 講 座

「大学生生活を振り返って」



焼耐製造学研究室

島田麻里奈

早いもので、気づけば卒業まであと5か月。大学生生活の4年間はあっという間に過ぎていきました。大学生生活を振り返ってみると、自分の考え方が1、2年生の頃よりずいぶん変わったと思います。

もともと友達の輪をあまり広げようとはしない性格でしたが、2年生から所属したサークルを通じて自分でも気がつかないうちに交流の場を広げていました。そこで出会った先輩方や友人の自分にはない考え方に衝撃を受けたことや尊敬の念を抱いたことが何度もあります。大学に入っている人々と出会い、いろんな価値観に触れることで、今まで自分がいかに狭い世界しか見てきていなかったかということを感じ、もっといろんな人と交流したいと考えるようになりました。そんな私にとって貴重な経験となったのが、Feeling Korea という韓国で韓国語と韓国の文化を学ぶ研修に参加したことです。鹿大生だけでなく中国やフランスの大学生も参加していて言葉の壁を人生で初めて感じました。コミュニケーションがうまく図れず、もどかしい気持ちに何度もなりましたが、慣れない韓国語や英語、ボディランゲージで会話が続いたときは本当に嬉しかったです。私が所属している研究室にも留学生がいるので、積極的にコミュニケーションを図ろうと思います。

今私が思うことは、大学とは多くを経験でき自分自身を大きく変える場所だということです。今回こうして振り返って考えてみると大学を入学した時の自分と卒業間近の今の自分とでは大きく変わったなと感じます。まだまだ大学生生活は終わっていないので残されたわずかな時間を充実させていこうと思います。



生物環境学科

森 林 管 理 学 講 座

「大学生生活を振り返って」



砂防森林水文学研究室

学部4年 松本 祐樹

この鹿児島大学に入学して、あっという間に四年生になってしまった。本当に短い大学生活だったと感じる。今、改めてこの大学生生活を振り返ってみると、何より思い出されるのは、サークル活動のことだ。私が所属していたのは、「かごみん」というサークルで、「国際協力」を柱として活動を続けるサークルだ。

私がこのサークルに入ったのは二年生の時だ。元々、国際協力という分野に興味があった私は、あっという間にのめり込んでいった。そして、ミャンマーのカンカウ村という地域への学校建設プロジェクトに参加し、その後は部長に立場を変えて、同地域の経済的発展を目指すプロジェクトを行った。また、この間に二度現地を訪れ、環境教育活動などの様々な活動もさせていただいた。これらの活動は、どれも学校の授業では経験できないような貴重なものだった。

このような活動の中で、私は多くのことを学んだ。その中でも特に大きいものは、「国際協力とは何か」ということについてだ。実際、国際協力は善にも悪にもなりうると思う。自分たちがこうしたいから…とか、こうすればもっと便利になるのに…、と相手を顧みずに活動することは、どこか上から目線であり、ただの自己満足でしかない。大事なことは、真のニーズを引き出し、そのニーズにあった支援をすることだと思う。つまり、国際協力とは「相互理解をもって双方が共有する望ましい未来へと共に協力し進んでいくこと」である、ということを私は学んだ。このことは、国際協力をやる上で大変重要な考え方であると思う。この他にも、学んだことを全て挙げればきりが無いが、日々の生活で生かされているものは多数ある。本当にこのサークルに入って良かったと思う。

最後に、私は来年度から大学院へと進学する。専門は防災分野である。卒業後は、防災分野の面から国際協力を携わっていきたいと考えている。あと二年間、

しっかりと知識・技術を学びたいと思う。

生産環境工学講座

環境システム学講座

「アルバイト経験を通して」



農業環境システム学研究室  
学部4年 満尾 和博

僕は、大学1年生の後半から、大学2年生の12月まで、フランス料理店でアルバイトをしていました。入った理由は、「フランス料理が好きだったから」という軽い理由だけですが、面接に行き、そのままアルバイトさせて頂くことになりました。そこから1年間のバイトが始まったのですが、特に店長が怖く、「手際」と「返事」についてはとてもきつく何度も叱られることがありました。また、怒られて落ち込んでそこから立ち直ることができず、焦ってばかりであったことが多くありました。半分は失敗だったと思いますが、自分のすべての弱点に向き合わされた経験でもありました。そして、大学2年の12月になって（甘えの気持ちもあるのですが）、やめることを決意しました。僕がやめるときに職場の方々から、激励を頂きましたが、その時一番心に残っていることは、「失敗しても自分に向きあわずに次のことを考えること」ということです。

バイト経験を振り返って、自分の中で、バイトをしたら鍛えられるのではないかと、どこかで勘違いしていた部分があったと思います。こんな失敗ばかりの自分が言うのもおこがましいのですが、手際や効率も大切だと思ったのですが、でも一番必要だったのはコミュニケーションだと思っています。相手が怖くて、ビビってしまうと自分の気持ちが伝わらなくなり、当然相手を見ないようにするため、信頼関係が築けません。気軽に話したり、話し合っただけで反省する機会も逃すことになり、自分中心の考えになってしまいます。たとえ、動きが悪くても、お互いの信頼関係が築けていれば、もっと落ち着いて、余裕のある動きができていたのではないかと思います。今でも、自分は成長しているかは分かりませんが、職場の方から頂いた言葉を大切に、仕事の前に、人との関わりを大事にいろんなことに挑戦したいと思います。

「反省と後悔」



利水工学研究室  
学部4年 山口 葵

4年生も半分が過ぎ、大学生活を振り返ってみると楽しかったことや良かったことだけでなく、後悔ややり残したこともたくさんあって、残された時間の少なさに焦りを覚えます。

1年生の頃は、大学の講義や一人暮らし、アルバイトなど初めてのことばかりで戸惑うことが多く、もっとうしていけばと今になって思う事がたくさんあります。1年目の講義は履修の仕組みも良く分からず、教養や基礎科目ばかりで退屈に感じ、てげてげにこなしてしまいました。また何事にも腰が重く、消極的で結局4年間サークルにも所属しないままでした。もしサークルに所属していたら、まったく違う4年間になったらと思うと思います。2年生になると、学科でもコース分けがあり希望していた農業土木分野に進むことになりました。専門科目や、教養科目で興味があった生態学等を積極的に履修することで、勉強がぐっと楽しくなり、力を入れるようになりました。また、入学時から興味を持っていた「国際協力農業体験講座」を受講し、初めての海外渡航でタイに行きました。見るものすべてが新鮮で、様々な体験を通して立場の違う人と分かりあうことの難しさや、歩み寄るためには何が必要か等、様々なことを学びました。3年生からは、将来のことを考え、公務員試験対策講座を受講し始めました。とは言ってもなかなか本腰を入れて勉強するようにはならず、後々後悔することになりました。専門科目の勉強でも、期限ぎりぎりに始めるレポートやテスト勉強を、反省しながらもなかなか改善できないままでした。4年生になると、就職活動が本格化し、研究室にこもって勉強に励みました。周りに公務員志望の人が多かったので、頑張る友人たちの存在が支えになり、良い形で就職活動を終えることができました。これからは卒業論文に向けて頑張っていきたいと思います。

大学生活4年間で学んだことはたくさんあります。後悔や反省も残りの大学生活、そして卒業後に活かし

ていくことが大切だと考えています。この4年間を最大限に活用してこれからも成長していければと思います。

張っていきたいと思います。

## 獣医学科

### 基礎獣医学講座

#### 「大学生活を振り返って」



行動生理・生態学教室  
学部6年 大島 亮子

晴れて鹿児島大学に入学した春、私は期待と喜びで満ちていたのを今でも覚えています。念願の一人暮らしや憧れていた動物のお医者さんに一歩近づけたと思うと嬉しくて仕方なかったです。

この大学生活を思い返すと長いようであっという間でした。ベトナムに行ったり自動二輪の免許をとってみたり、馬術部に入ったりと予てからやってみたいと思ったことは大体してきました。特に大学生活でありがたかったと思うのは部活を通して気の合う仲間ができた事だと思います。馬術部時代は早朝の練習・部バイト・藁取りなどけっこうきつい事が多かったのですが、愉快的な部員と共に過ごした日々は今思い出しても楽しいことばかりでしたし、なによりも卒業後で離れていても会えば何事もなかったように笑い合える貴重な友人に恵まれたことは本当にありがたいです。人生初めてのバイトもこの時期くらいから始めたと思います。慣れないことばかりで失敗もたくさんありましたが、社会勉強として学ぶことは多く、また小料理屋を営むママさんからは本当に良くしていただき悩み事をいつも親身に聞いていただいた事を覚えています。

研究室に配属されてからは実践的な実習やより専門的な授業が増えていき、また診療のお手伝いをするようになって臨床現場を意識しはじめました。動物病院での臨床実習を通して、予てから私は小動物臨床志望でしたが、時に自分には能力が無いのでは、向いていないのではと悩むこともあり、今でも自信を持って臨床の道に進むことは正直できていません。けれども自信はないですが覚悟は決めているので、無事に国試に通る卒業した後、ご縁のあった動物病院先で精一杯頑

### 病態予防獣医学講座

#### 「六年間を振り返って」



動物微生物学研究室  
学部6年 中川 美穂

入学した当初、やっと獣医という夢へ一歩踏み出せるという期待と6年という長い期間を無事に終えることができるのかという不安を感じていました。どちらかという不安のほうが大きかったかもしれません。しかし、その6年もあと数か月で終わろうとしています。過ぎてしまえば早かったように感じますが、この6年間は楽しいことも大変なこともありとても充実した時間でした。

獣医学の勉強では、志の高い友人達に囲まれることで私も頑張る様々な試験や実習を乗り越えることができました。助けてもらったこともたくさんあり、友人達には大変感謝しています。

学生生活では自由な時間もあつたので、サークル活動、アルバイト、海外旅行などに挑戦しました。サークルでは合宿や大学祭などのイベントを全員で協力してこなしていくうちに友人たちとの仲もどんどん深まっていきました。他の学部の友人達が卒業してしまった今でも年に数回会って食事をする仲となっています。アルバイトや海外旅行をすることは高校生までは生活範囲が極めて狭かった私にとってとても新鮮なことばかりでした。アルバイトでは年代の違うたくさんの人達と関わることで、海外旅行では異文化に接することで、新しい世界を知り客観的に自分を見直すきっかけとなりました。

4年生から所属している微生物学研究室では、主に出水に飛来するツルの持つ病原体について調査しました。毎年11月から2、3月にかけて毎月出水に行き真冬の早朝に屋外で作業することは、鹿児島とはいえとても寒く非常に辛いものでした。しかしそれもこれからの人生では二度と経験することのできない貴重な体験であったと思います。

このように学生生活では獣医学の知識だけではなく、多くの友人や経験を手に入れることができました。今

後卒業し就職してからも6年間で得たものを大切にしていきたいと思います。

臨床獣医学講座

「大学生活を振り返って」



伴侶動物内科学分野  
学部6年 久保 翔太郎

大学生活を振り返ってみると、最初は長いように感じた6年間という時間もあっという間に過ぎ去ってしまったように感じます。入学当初は卒業するころには25歳にもなり、きっと落ちついた大人になっているのではないかと思っていましたが、卒業間際の今現在の自分をかえりみてみると思っていたより大人になりきれてないなと月日の短さを感じてしまいます。

学生生活では、いい仲間にも恵まれ、多くの時間を一緒に過ごし、共に遊び、勉強し、楽しい日々を過ごすことができました。3年生までは時間に余裕がありアルバイトもしました。大学生になって初めてアルバイトを経験したのでお金を稼ぐ仕事を担うことの責任、アルバイトを通して出会うさまざまな年代の人とコミュニケーションなど、多くの社会勉強もできました。4年生になり、研究室に配属されてからは学校の授業や実習以外にも付属動物病院での診察の手伝いや、研究室で飼育している動物のお世話、卒業論文の実験など、とても忙しくなりました。小学生のころからの夢である小動物臨床に参加できる付属動物病院での診察の手伝いはとても大変ではありましたが、興味深く、授業や実習では学ぶことのできない多くのことも得ることができたと思います。また、動物たちが元気になっていく姿やそれをみたオーナーの方の笑顔をみる度に、小学校から夢を追い続けてよかったと感じました。

卒業後は新しい環境で社会人1年生として新しいスタートになります。希望も不安もあります。大学で学んだことを十分に活かし、1日でも早く昔自分が思い描きたい獣医師になれるよう努めていきたいと思っています。最後になりましたが、6年間お世話になった先生方、先輩、後輩、そして同学年みなさん、本当にありがとうございました。

メモリー

～進路・就職に役立つ先輩の経験・体験談～

教育実習奮闘記



「教育実習を終えて」

生物生産学科 園芸生産学講座  
果樹研究室

学部4年 高倉 晏希子

五月下旬、私は母校で二週間、教育実習を行った。高校時代にお世話になった先生方に、はじめて「先生」付けで呼ばれた時の高揚感は今でも鮮明に記憶している。右も左もわからない中で、実習生と切磋琢磨し、指導教員にアドバイスをいただきながら二週間、懸命に生徒と向き合った。

授業をする上で最も頭を悩ませたのは、教え、伝え、理解を促すことの難しさだった。授業内容を理解している自分と理解の及んでいない生徒のギャップを推し量りながら授業計画を練ったが、どう頑張っても必ず不備が出てしまう。その度に、自分の不甲斐なさを痛感した。しかし、嬉しいこともあった。指導教員の進言もあって、すべてを教えることを控えていたところ、授業後に生徒がわたしの狙い通りの質問をしてくれたのだ。これはもう涙が出そうなほど嬉しい経験で、教壇に立つことの喜びを体感することができた。

高校生が入学を目指している「大学」に籍を置いていることもあってか、進路相談をされる機会もあった。このときの生徒は、数年先の将来を見据えて真剣に大学を吟味しており、悔いのない選択のために努力している姿を見て、自分自身の将来への姿勢を考えさせられた。

他の教育実習生は、互いの授業を見合い、授業の改善とともに尽くしてくれる良き仲間であり、同じ立場の理解者でもあった。最初は遠慮がちだった意見交換も、日が経つにつれ議論が熱を帯び、一日を過ごす真剣さが増していった。一人の悩みのために、周囲の人が一緒に悩み助言してくれる信頼関係をたった二週間足らずで築いてしまうくらい濃密で貴重な時間だった。

学校運営の一環である職員朝礼や生徒総会、教科会にも参加した。改めて教壇に立ちながら、学校運営の

後卒業し就職してからも6年間で得たものを大切にしていきたいと思います。

臨床獣医学講座

「大学生活を振り返って」



伴侶動物内科学分野  
学部6年 久保 翔太郎

大学生活を振り返ってみると、最初は長いように感じた6年間という時間もあっという間に過ぎ去ってしまったように感じます。入学当初は卒業するころには25歳にもなり、きっと落ちついた大人になっているのではないかと思っていましたが、卒業間際の今現在の自分をかえりみてみると思っていたより大人になりきれてないなと月日の短さを感じてしまいます。

学生生活では、いい仲間にも恵まれ、多くの時間を一緒に過ごし、共に遊び、勉強し、楽しい日々を過ごすことができました。3年生までは時間に余裕がありアルバイトもしました。大学生になって初めてアルバイトを経験したのでお金を稼ぐ仕事を担うことの責任、アルバイトを通して出会うさまざまな年代の人とコミュニケーションなど、多くの社会勉強もできました。4年生になり、研究室に配属されてからは学校の授業や実習以外にも付属動物病院での診察の手伝いや、研究室で飼育している動物のお世話、卒業論文の実験など、とても忙しくなりました。小学生のころからの夢である小動物臨床に参加できる付属動物病院での診察の手伝いはとても大変ではありましたが、興味深く、授業や実習では学ぶことのできない多くのことも得ることができたと思います。また、動物たちが元気になっていく姿やそれをみたオーナーの方の笑顔をみる度に、小学校から夢を追い続けてよかったと感じました。

卒業後は新しい環境で社会人1年生として新しいスタートになります。希望も不安もあります。大学で学んだことを十分に活かし、1日でも早く昔自分が思い描きたい獣医師になれるよう努めていきたいと思っています。最後になりましたが、6年間お世話になった先生方、先輩、後輩、そして同学年みなさん、本当にありがとうございました。

メモリー

～進路・就職に役立つ先輩の経験・体験談～

教育実習奮闘記



「教育実習を終えて」

生物生産学科 園芸生産学講座  
果樹研究室

学部4年 高倉 晏希子

五月下旬、私は母校で二週間、教育実習を行った。高校時代にお世話になった先生方に、はじめて「先生」付けで呼ばれた時の高揚感は今でも鮮明に記憶している。右も左もわからない中で、実習生と切磋琢磨し、指導教員にアドバイスをいただきながら二週間、懸命に生徒と向き合った。

授業をする上で最も頭を悩ませたのは、教え、伝え、理解を促すことの難しさだった。授業内容を理解している自分と理解の及んでいない生徒のギャップを推し量りながら授業計画を練ったが、どう頑張っても必ず不備が出てしまう。その度に、自分の不甲斐なさを痛感した。しかし、嬉しいこともあった。指導教員の進言もあって、すべてを教えることを控えていたところ、授業後に生徒がわたしの狙い通りの質問をしてくれたのだ。これはもう涙が出そうなほど嬉しい経験で、教壇に立つことの喜びを体感することができた。

高校生が入学を目指している「大学」に籍を置いていることもあってか、進路相談をされる機会もあった。このときの生徒は、数年先の将来を見据えて真剣に大学を吟味しており、悔いのない選択のために努力している姿を見て、自分自身の将来への姿勢を考えさせられた。

他の教育実習生は、互いの授業を見合い、授業の改善とともに尽くしてくれる良き仲間であり、同じ立場の理解者でもあった。最初は遠慮がちだった意見交換も、日が経つにつれ議論が熱を帯び、一日を過ごす真剣さが増していった。一人の悩みのために、周囲の人が一緒に悩み助言してくれる信頼関係をたった二週間足らずで築いてしまうくらい濃密で貴重な時間だった。

学校運営の一環である職員朝礼や生徒総会、教科会にも参加した。改めて教壇に立ちながら、学校運営の

役割を担う先生方に尊敬の念を送らずにはいられなかった。そして、教える側にいるはずの自分が生徒からたくさんのことを学ばせてもらっていたことに気づき、感謝の気持ちでいっぱいになった。加えて、良き仲間にも恵まれたこの教育実習での貴重な経験は、生涯忘れることはないと思える。この経験を、これから人生にどのように還元していくかを頭に入れて日々を過ごしていきたいと思う。



### 「教育実習を終えて」

生物資源化学科 食品機能化学講座  
栄養生化学・飼料化学研究室

学部4年 中澤 健斗

私は9月の上旬から3週間、教育実習生として母校の教壇に立っていました。初日の緊張感、そして、私が生徒だった当時とは校舎が移転したこともあり、出身校とはいえ、生徒時代と実習生としてでは、全く感覚が違った事を今でも鮮明に覚えています。実習期間中に文化祭があり、その準備を手伝ったり、文化祭で発表する劇の練習風景を見に行ったりしているうちに、生徒達と仲良くなれました。今思えば、生徒達が私の緊張をほぐしてくれていました。

教育実習で一番頭を悩ませたことは、『人に物事を教えて、それを理解してもらうにはどうすればよいのか』ということです。担当教科が高校化学で、私は主に「物質」と「酸・塩基」の範囲を教えていました。物質は化学の基礎となるので、生徒達にしっかりと意味を理解させようという意気込みで授業をしました。しかし、説明した後に演習をさせてみると、生徒はあまり理解していませんでした。手が止まっている生徒を見つけては一緒に問題を考えました。個別にもう一度説明し直すと、「これだけ？簡単やん！分かった！」と言って、問題の続きを一人で解き始めました。生徒が理解してくれた時は本当に嬉しかったです。しかし、50分の限られた時間で、一人一人の生徒に教えることは現実的ではありません。30人の生徒が全体での説明を聞いて理解できる授業が求められていると実感しました。クラス全体に理解させることは本当に重要なことだと思いましたが、まずは一人一人と向き合いたくなったというのが実習を終えての心境です。

また、教員側として普段の学校での生活を通じて、『生徒時代に楽しく高校生活を送れたのは、先生の陰でのアシストが大変大きかったからだ。』と深く感じまし

た。実習を経験して、私が教師になった際には、自分がしてもらった以上のアシストをして、生徒が学校生活を楽しめるようにしてあげたいとより強く思うようになりました。



### 「インターンシップを通して学んだこと」

家畜生産学講座  
家畜管理学研究室

学部3年 松永 治子

私は昨年と今年の夏休みを利用して、インターンシップに参加しました。昨年は動物園に、今年は個人経営の農家さんの所に行きました。私は、畜産関係の仕事がしたいと思い家畜生産学コースを選択しました。家畜のを中心に動物のことを学ぶうちに、動物と関わる仕事全般に興味がわいてきました。将来のことを考える中で、自分が興味のあることが実際にどのような仕事なのかを知りたいと思い、インターンシップに参加しました。

インターンシップでは、動物や家畜の小屋の清掃や、餌やりを中心に仕事を体験させていただきました。動物園でも農家さんの所でも共通していたのは、「掃除を丁寧にやる」ということでした。動物が気持ちよく過ごせるようにすることはもちろん、病気や怪我の予防にもつながります。基本的なことですが、掃除が持つ大きな意味を改めて学ぶことができました。また、動物の健康管理や餌の量の調整など、動物を見て臨機応変に対応すること、そのためには動物をしっかりと観察することが大切であることも学びました。

動物園と農家さんの違いも学ぶことができました。動物園では、お客様とのコミュニケーションを図ったり、動物のことを学習できるイベントや看板の作成をしたりすることも重要な仕事でした。農家さんでは、消費者に顔が見えるように、地域に密着するということ点では、人を相手にする仕事といえますが、一般の方向けに開放している牧場でない限り、家畜の飼養管理がメインであると感じました。

インターンシップに参加することによって、仕事に対するイメージを現実的なものに変えることができました。また、興味なかった職種の魅力を発見できるなど、視野を広げることにもつながると思います。インターンシップは、やりがいや魅力を再発見でき、自

分と向き合うことのできる貴重な体験ができる場だと思いました。



## 「キャンパスライフについて」

生物資源化学科  
生命機能化学科

学部3年 山元 彩華

インターンシップでは主に模擬紙面の作成を行いました。プロの記者さんからアドバイスをいただきながら、自分の調べたいテーマをペアのインターンシップ生と協力して記事作成しました。うまくいかず、振り返ると反省点ばかり思い浮かんでしまうのですが、頑張った分記事が完成したときの達成感は言葉では言い表せないくらい大きいものがありました。さらに、記事を書き終えた日に、同じ事をテーマとした記事が本紙の方に載ってしまい「抜かれる」という経験までしてしまいました。プロの記者さんも他の記者さんにテーマを先に抜かれることは時々ある話だそうで、仕事で経験する非常に悔しいことのひとつらしいです。普段何気なく読む「記事」をひとつ作り上げるのに、こんなに労力と根気がいるのかと思うと、新聞記者さんの偉大さを感じざるを得ませんでした。

さて、「新聞社で働く」というと、真っ先に思い浮かぶのが新聞記者さんだと思います。しかし、今回のインターンシップで、「職種のデパート」だと言われているほどの幅広いジャンルの部署が新聞社にあることを知りました。各部署の担当の方が講義をしてくださったのですが、部署の仕事内容を丁寧の説明してくださったり、些細な質問にもわかりやすく答えてくださったりしたので新聞社について理解できた気がします。人事部の方からは、採用する時にどのようなことに注目しているのかを教えていただき、就職活動の参考になりました。

五日間を通して社員さんや取材先の方々が、私たちが大学生としてではなく、一社会人として接して下さったお陰で、今の学生気分のままでは社会人になったとき中途半端な仕事しかできないということに気づかされました。就職までまだ時間があるので、インターンシップで学んだことを胸に、社会人になるための準備を始めたいと思います。



## 「インターンシップで学んだこと」

環境システム学講座  
食料環境システム学研究室

学部3年 田原 千成

私はこの夏、宮崎県総合農業試験場において5日間のインターンシップに参加した。就職は地元宮崎に戻って、何か宮崎県の農業を支えられるような職業に就きたいと考えていたため、県の農業を発展させるため様々な研究が行われている、この宮崎県総合農業試験場のインターンシップに参加させて頂いた。

5日間のインターンシップは大変充実しており、本当に数多くのことを学ぶことができた。その中でも、実際の職場環境を見ることで、良い仕事を行うには職場環境を良くすることが大切なのだという事を学ばせて頂いたことが、一番大きな収穫であったように思う。試験場では大規模で様々な作物を栽培しており、一人でそれらを管理することは出来ない。そして県職員の方だけではなく、非常勤などの方々もいらっしゃるため、そのような方々が互いに協力し合って仕事をする必要があるが、試験場では皆さんの連携や意思疎通が非常によくなされており、働いている全ての人が良い人間関係の中で仕事をされていた。また、得意な分野では他の人の手助けをし、不得意な分野においては助けを借りるなどして仕事をされている姿も見られた。このように、良い人間関係の中で仕事をされ、チームワークを強めることが出来ているからこそ良い仕事ができるのだという事を、間近で拝見させて頂いて強く感じた。

この他にも、人間関係面だけでなく農業や研究を行う上での技術的な面についても、本当にいろいろなことを学ばせて頂いた。また、久しぶりに地元宮崎の方々と接することにより、改めて故郷のあたたかさを感じることができ、今回インターンシップに参加して良かったと心から感じた。これから就職に向けて進んでいくわけであるが、自分の志望する職業に就けるよう日々の努力を怠らず、一日一日少しずつでも前進していきたい。そして就業してからも、今回学んだことを決して忘れないでおこうと思う。最後に、インターンシップに関わって下さった全ての方にお礼を申し上げたい。





## 「動物検疫所インターンシップ」

農学部 獣医学科

学部5年 井上 皓太

私は今年の夏休みに、農林水産省動物検疫所にてインターンシップを行いました。動物検疫所ではどのようなことをしているのか、またそこでの獣医師の役割はどのようなものなのかを実際に体験してみたいと思い、参加させていただきました。

体験させていただいた業務内容は、海外から輸入される加工肉製品や稲わらについての書類審査および現物検査でした。書類検査では、海外悪性伝染病の病原体を持ち込まないために各国と交わした衛生条件を基に書類審査を行っていました。この他、様々な場面で行われる書類審査では、見落とし・間違いを見落とさないために、複数人による綿密な確認が複数回行われていました。

その他にも、輸入される馬が空港に到着してから日本国内に輸送されるまで、動物が監視伝染病を始めとした病気に罹っていないかを診察するために係留期間が決められているのですが、その期間の診察および各種検査を体験させていただきました。これらの検査は国で決められた基準に沿って行われており、職員の方々にそれらを円滑に且つ正確に行うための作業のポイントなども丁寧に教えていただきました。

今回のインターンシップは、国家公務員として働いている獣医師の方々を間近で見ることの出来た、大変貴重な機会となりました。輸出入が行われている現場での業務はとて大変でしたが、日本を伝染病の脅威から守る砦の一つであるということ学びました。これから先就職を控えています、自分がどういう職業に就きたいか、またどういう獣医師を目指すのかということを実際に考えながら、残りの大学生活を過ごしていこうと思います。

最後になりましたが、今回ご多忙の中インターンシップをさせていただきました農林水産省動物検疫所門司支所鹿児島空港出張所の職員の方々、またお世話になりました皆さまに厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。



## 介護体験記



「介護等体験感想」

生物資源化学科

食品分子機能学研究室

学部4年 上谷 隼人

私は、「武岡台養護学校」と「デイサービスセンター虹の家たにやま」で介護等体験を行わせていただきました。武岡台養護学校では中学部の授業のお手伝いを任されました。職業訓練や運動会の練習といった様々な体験を重ねていくうちに見えてきたのは一人一人の個性にあった対応でした。様々な性格の生徒がいて、それに合わせて対応すると上手くコミュニケーションが取れるということを実感できました。連日の授業を終えると余程私が気に入ったのか、昼休み中、私のことを引っ張りまわし方に連れ回して自慢していました。最終日には帰りのバスに乗ってくれと頼まれてなだめるのに苦労しながらも、内心すごく嬉しかったのを覚えています。一方、虹の家たにやまは高齢者の介護などをする施設であり、私は様々なお手伝いを任されました。武岡台養護学校では私は先生でしたが、ここでは人生の大先輩が相手であり、様々な事を教えて頂きました。初めは私の心の緊張が伝わったのか会話がごちない面もありましたが、幸運にもそんな私を助けてくれたものがありました。それはTVの甲子園中継です。当時、高校球児の熱い激闘は入所者と私の心の壁を打ち壊し、その日の午後から私は入所者の皆さんの話の輪に自然に入りこんでいました。皆さんとお話をするうちに、それぞれの過去があり現在があるという事が分かってきました。体の不調でいらしている方や認知症を患っている方など様々な方がいらっしゃいましたが新顔で若い私とのおしゃべりが新鮮だったのか話も様々な話題に行ったり来たりして、大笑いしたり楽しい日々を過ごしました。鹿児島大学をご卒業なされた方もいらして、その方のハーモニカの腕前には驚かされるばかりでした。私が最終日の挨拶をしているときに、どこからともなくハーモニカの「ふるさと」の音色が聞こえてきたときには思わず目頭が熱くなりました。短い期間でしたが、これらの施設で私が出たものは日々の生活では得難いものばかりでした。

# 留 学 報 告



## 「臨床獣医学研修 in Georgia」

伴侶動物内科学分野

学部5年 中尾 大樹

私は今年の8/16から8/30の約2週間本学の選択科目である臨床獣医学特別研修の一環として、アメリカ・ジョージア州にあるジョージア大学獣医学部を訪れました。獣医を目指した中学生の頃ぐらいから海外で働くことに興味があり、大学1年生の時にはニューヨーク州のコネル大学獣医学部を見学し、設備、獣医師やテクニシヤンの数の多さ、教育システムに驚きました。当時は、1年生で専門知識に乏しく診療等を見てただ新鮮に感じるだけだったため、今回5年生になり講義、実習を通して専門知識を学んだ状態で、もう一度アメリカの大学を見てみたいと思いこのプログラムに参加しました。

ジョージア大学では北里大学の学生と共に自分の興味のある4つの診療科をローテーションでそれぞれ回り、現地の学生と一緒に診察を見学させてもら

いました。診療科数は23と日本より多く診療科は専門分野に分けられ、より高度な診療を行う体制及び学生への教育体制が整っていました。私はエマーゼンシー、腫瘍科、エキゾチックアニマル/野生動物、皮膚科を見学しました。興味のある分野だったので楽しく、会話もスムーズに行えました。また、日本との検査方法や学生の役割の違いを感じ、それと同時に検査、治療方法等一部は同じと感じました。そして病院の診察が終わると、現地の学生や学部の方々がパーティを開催してくれ、親睦を深めることができました。ホームパーティーを通じてアメリカの文化に触れられたことや、皆優しくもてなしてくれたことから心から楽しむことができました。

今回得た知識や経験が実習や病院での診療の手伝いに役に立つだけではなく、今後のモチベーションにつながるであろうと考えられました。また、自分が海外で働きたい、特に専門医を取得したい気持ちがより強くなりました。英語によるコミュニケーション能力の上達のみならず、文化や言語の違いを通して視野も広がりました。最後にこの研修でお世話になった方々に感謝すると共に、海外に興味のある学生、進路に悩んでいる学生にとって非常に良い経験になるであろうと感じ、積極的な参加を促したいと感じました。



## 編 集 後 記

今回の学生向け会報は、如何だったでしょうか。メインの記事が以前の研究室紹介のスタイルから、「ビバ・キャンパスライフ」のエッセイ風のスタイルに変わって5年が経過しました。各コース（講座）の先生を通じて原稿をお願いしているので、執筆者は4年生以上の人ということになり、卒業や修了を前にして学生生活を振り返っての所感という内容が多いようです。私は、人それぞれの思いがあるんだなと結構、興味深く読んでいますが、学生の皆さんは如何でしょうか。

現在のスタイルにして5年になりますので、そろそろマイナーチェンジ位はした方が良くないかなと感じています。そのためには学生の皆さんに、この会報を読んでの感想やご意見が聞きたいところです。雑談などする機会がありましたら先生にお話ししてもらえれば、私たち担当者の方にも伝わると思います。また積極的にメールなどで伝えていただければ、非常にありがたいです。よろしくお願いします。

(文責 生物資源化学科 樗木直也 : chishaki@chem.agri.kagoshima-u.ac.jp)

### 鹿 児 島 大 学 農 学 部 あ ら た 同 窓 会

〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目21-24

TEL・FAX 099(285)8537

e-mail(aratakai@mc2.seikyuu.ne.jp)

振 替 口 座 02010-2-876

事務局の業務日 月・水・金(10:00~16:00)

印 刷 所 中央印刷株式会社  
住 所 鹿児島市春日町12-16  
TEL 099-247-3300  
FAX 099-248-0164  
E-mail p-chuou@awg.bbiq.jp



指宿植物試験場での実習風景



指宿植物試験場における実習中の食事風景